

問題 1

1-1.出題意図

この問題は、カウンセリングの各領域および関連領域の基本的専門用語を提示し、その解説を求めるものである。カウンセリングに関連する重要な基本的用語を正確に理解し、簡潔に重要なポイントを絞ってまとめる能力を問うことを目的としている。

1-2.問題文と解答例

以下の7つの用語について、それぞれ100字～200字の範囲で説明しなさい。

(1) 社会的参照 (social referencing)

乳幼児が不確かな状況や新しい対象に接した際に、親や養育者などの信頼できる大人の表情や声などを手がかりにして、行動を調整することをさす。例えば見慣れないおもちゃを前に親が笑顔だと安心して近づき、逆に不安な表情であとずさりする。生後8～12か月頃から見られるようになり、「子ども—対象—他者」という三項関係が認められ、社会的学習や安全な探索行動の基盤となる。

(2) 分散分析における交互作用 (interaction in analysis of variance)

分散分析において二つ以上の要因の効果を検討する際において、複数の要因が組み合わさることで初めて発生する効果のことをさす。また、交互作用が有意である場合には単純主効果検定を実施し、一つの要因が及ぼす効果が、もう一つの要因の水準によってどのように異なるかを詳細に調べる。

(3) 確証バイアス (confirmation bias)

確証バイアスとは、自分がすでに抱いている信念や仮説を支持するような情報や知識のみを優先的に収集もしくは処理しやすく、そうでない情報や知識については無視したり軽視したりしやすいという、認知上の傾向のことである。

(4) 学習性無力感 (learned helplessness)

自分の行動が結果を変えられない経験を繰り返すことで「努力しても無駄だ」と学習し、行動が制限される状態をさす。セリグマンとメイヤーの犬の実験で、電気ショックから逃れられない状況を経験した犬が、電気ショックを回避することが可能な状況になっても逃げなくなる現象から見出された。この状態は、学習や発言に成果や応答が得られずに、意欲を失う場面などに見られる。

(5) 統制の所在 (locus of control)

統制の所在とは、Rotterなどが提示した概念で、行動や結果の原因を自分自身の内的要因に帰属するか、外的環境に帰属するかという認知的傾向を指す概念である。内的統制型は成功や失敗を自己の努力・能力に求め、外的統制型は運や他者、状況に求める傾向をもつ。この傾向は動機づけ、ストレス対処、学業達成、健康行動など多くの心理的・行動的領域に影響を及ぼす。

(6) 守秘義務の限界 (limits of confidentiality)

守秘義務の限界とは、カウンセリングを開始する際にクライアントとカウンセラーとの間で交わされる契約の一つである。守秘義務とは、カウンセラーが職務上知り得た個人情報を守ることに関する職業倫理の一つである。ただし、守秘義務には限界があり、自己や他者を傷つける意図や法律に違反することを行う意図を話した場合、適切な関係者などに報告するなど対応が必要とされる。これを守秘義務の限界と呼ぶ。

(7) ワーク・エンゲイジメント (work engagement)

活力、熱意、没頭によって特徴づけられる、仕事に関連するポジティブで充実した心理状態であり、特定の対象、出来事、個人、行動などに向けられた一時的な状態ではなく、仕事に向けられた持続的かつ全般的な感情と認知である。

問題 2

2-1.出題意図

問題文は、科学と哲学の関係について述べた「科学と人間性」(湯川秀樹著 1948 年) から抜粋したものである。科学と哲学の両視点から、人間に対して柔軟かつ適切な支援を企画実行できる高度職業専門人を養成するカウンセリング学位プログラムの受験生に資する有益な題材と考え選定した。

2-2.問題文と解答例

1. 小論の内容を 200 字以内で要約しなさい。

科学と哲学は時間とともに分化し、さらに多くの分野に枝分かれした。そのため、すべての分野に精通することはできない。科学と哲学が一つであった過去にあこがれることがあっても、時間は後戻りすることができないため、未来に向けての行動を起こす必要がある。人間の営みは人間性に根ざすものであるため、科学者が同時に哲学者でありたいという要求は消滅することはない。科学の発展段階に応じて、新しい哲学の出現が求められる。

2. 小論の内容を踏まえながら、科学と哲学のつながりについて、あなたの見解を 400 字以内で述べなさい。

(省略)

問題 3

3-1.出題意図

問題文は、内閣府が公表した「満足度・生活の質に関する調査報告書 2023～我が国の Well-being の動向～(概要)」のデータを一部抜粋・改変したものである。本調査は、生活満足度 (Well-being) を多角的に把握することを目的としており、その中から本問題では、親子をとりまく環境と各種満足度の関連を示す図表を選定した。Well-being はポジティブ心理学の中心的概念であり、カウンセリング学位プログラムを志望する受験生にとって関連性が高く、データの読み取りの難易度も適切であると判断し、これを選定するに至った。

問1は、複数の図表から重要な情報を読み取り、それらの関連を論じる力を問う問題である。問2は、問1で得られた知見をもとに、明らかになっていない問いを設定し、それを検証するための研究計画を立案する力を問う問題である。これらを通して、与えられたデータから本質的な情報を抽出し、研究計画へと発展させる力を評価することを目的としている。

3-2.問題文と解答例

下記の調査は、約1万人を対象としたインターネット調査により、総合的な生活満足度や分野別の満足度を多角的に把握したものである。図1、図2は、調査対象のうち、未就学児、小学生・中学生、高校生が世帯にいるかどうかで分類し、65歳以上を除いたデータである。なお子どもが複数いる世帯は、それぞれに重複して計上している。図3は、18歳未満の子どもがいる世帯を対象としたデータである。

1. 図1、図2、図3から読み取れる、親子をとりまく環境と様々な満足度の関連について300字以内で論じなさい。

子どもの学齢段階があがるにつれて、教育費などの負担が増大し、家計や資産に対する満足度が低下するとともに、生活満足度全体に及ぼす相対的な影響も強まることが示唆される。子育て世帯の生活満足度は、未就学児をもつ世帯が高校生をもつ世帯よりも高く、子どもの学齢があがるにつれて、生活満足度と家計および資産満足度は低下する傾向がみられる。そこには男女差が見られ、女性の満足度の低下が顕著である。子育てのしやすさには、ソーシャルネットワークの重要性が示され、子育てを気軽に頼める人の有無や、友人などとの交流頻度が子育てのしやすさの満足度に影響を及ぼしている。

2. また、1.で指摘した点について、より詳細に分析するためには、他にどのような調査を行う必要があると考えるか。あなたが必要だと考える調査の方法や対象、項目などについて、300字以内で記述しなさい。

(省略)